1　次の文章を読んで、**問1**～**問7**の問いに答えなさい。

ネットワークを形づくり、たがいにつながるということは、生命体が生き延びるための大前提であると私は考えます。生命の特徴は、個がネットワークを形成して、他者と情報交換することです。ここで言う「情報」とは、個の生存を可能にする知識や経験の総体です。たとえば、花の色や匂いは、そうした「情報」の一種といえます。花は、花粉の①媒介者である昆虫にたいして、自分の色や匂いを伝達することで生き延びていきます。

地球の生命は情報交換によって、四〇億年もの間、途絶えることなく現在までつながってきました。逆にイいえば、生命が時間的・空間的につながっていけるかどうかは、個と個がどれだけ情報を分け与えあい、共に全体として生きられるか否かにかかっているということです。

生命としてまず一番大切なことは「生きる」ということです。もっと言えば、「自分が生きる」ということです。「個が生きる」ためには、いまお話をしたように、他者とネットワークでつながることが必要です。そうしてたがいに生存にかかわる情報を伝え合い、生き延びてウいく。「生きる」とは、根源的にはそういうことだと私は考えます。

まず「自分が生きる」、そして「他者と生きる」、それがあって初めて、生命を次の世代にエつなぐことができます。つまり、「生きる」ということには、他者と空間的につながることと、後の世代と時間的につながること、という二つの意味があるのです。

この一〇年で携帯電話、インターネットが急速に②盛んになり、個人と個人とがグローバルに、国や文化に関係なく情報交換をする方向に向かっています。これは、人類が個々人すべての智恵を総動員しなければ、もう持続的に生き延びられないと直感的に③サッチし、種全体として生き延びようとしていることを意味するのではないか。私にはそう思われます。

ところがその一方で、人類（ホモサピエンス）はいま、己の力を過信し、四〇億年にわたる「生命のつながり」から自分自身を切り離そうとしているように、私には見えます。「生命のつながり」を忘れ、人類という特定の生物種だけが繁栄しても、生き延びることはできません。私たち人類はいま、そういう事態に直面しているのだと思います。

では、人類が生き延びていくためには、どうすればよいのでしょうか。「どうしたら「生命のつながり」を④ダモてるか？」という問題意識をもち、四〇億年途切れることなくつづいてきた、「生命のつながり」を意識しながら生きることです。別の言い方をすれば、地球生命体として生きるということです。それが、本当の意味での「生きる」ということであり、人類が生き延びていくための条件なのではないかと私は考えます。

（毛利　衛（まもる）『宇宙から学ぶ』による）

問1　①媒介　②盛ん　③サッチ　④ダモてる　の読み仮名を書きなさい。また、③サッチ　④ダモてる　を漢字に直して書きなさい。

問2　考え　と同じ活用形の動詞を本文中のア～エから一つ選んで記号を書きなさい。

問3　繁栄　と同じ組み立ての熟語を、次のア～エから一つ選んで記号を書きなさい。

ア　公立　イ　豊富　ウ　握手　エ　多忙

問4　本文中における「個」として**適切でないもの**を、次のア～エから一つ選んで記号を書きなさい。

ア　昆虫　イ　自分　ウ　人類　エ　地球

問5　次は、この文章についての愛さんと健さんの会話である。内容が正しくなるように、〔X〕〔Y〕には**七字**、〔Z〕には**三字**で、当てはまる語句を本文中からそれぞれ抜き書きしなさい。

愛　筆者は、生命の特徴は、たがいにネットワークを形成して他者と情報交換することだと言っているね。

健　そうだね。この情報とは、〔　X　〕情報のことだよね。

愛　そうか。生命が四〇億年続いてきたのは、「生きる」ために他者と〔　Y　〕につながってきたからなんだわ。

健　ところで、「他者」ってだれのことなのかな。

愛　「他者」には二つの意味があると思うわ。一つは、自分以外の人のこと。もう一つは、人類という種に対する他の〔　Z　〕のことじゃないかな。

健　つまり、人類がこれからも持続的に「生きる」ためには、他の〔　Z　〕とつながることが必要なんだね。

愛　そのために、私たちはどうしたらいいのかしら。

問6　私にはそう思われます　について、「そう」の内容を次のようにまとめた。〔　　〕に適する語句を十五字以内で書きなさい。

近年、国や文化に関係なく情報交換が進んでいるのは、〔　　〕としていることの表れである。

問7　人類が生き延びていくための条件　について、筆者が考える「条件」を、解答欄にしたがって三十字以内で書きなさい。

2　次の【Ⅰ】と【Ⅱ】を読んで、**問1**～**問5**の問いに答えなさい。

【Ⅰ】

高校の部活でちょっと遅くなった。

帰りの電車に乗ったら、同じ車両の中で父を発見してしまった。少し離れた座席で、うずくまるように肩をすぼめて座っていた。

僕は父のところにいって声をかけなかった。父は無口な人で、僕たちは家であまり話をすることもなかったので、父に声をかけたり話をするのは苦手だった。

何か考えごとをしているのか、足元に視線を落としたままじっとして動かなかった。

次の駅で乗り込んできたおばあさんが、席を探してせわしなく車内を見渡した。立っている人は多くなかったが、席は空いていなかった。

電車が発車して、おばあさんはゆっくりと車内を移動した。誰かが席をゆずってくれないかという態度だった。誰も席を立たなかった。みんな眠ったふりをしたり、①ザッシや本から視線を外さなかった。

おばあさんが父の前までやってきた。きっと父も、他の乗客と同じように狸寝入りをして、おばあさんをやりすごすんじゃないかと思った。

ところが父は、すぐすごと逃げるような感じで席を立ってしまった。おばあさんと目を合わせることもなく、何もいわずにドアの前に立った。停車しかかっている次の駅で降りるという態度だった。でも父は次の駅で降りるはずはなかった。家のある駅はまだずっと先だった。そう思ったけど、父は次の駅で降りてしまった。その駅で用事があっただけで、わざわざ席をゆずるために立ったのではなかったのだ。

そうだろうなと思った。恥ずかしがり屋の父は、②オオゼイの乗客の前でおばあさんに席をゆずる③度胸なんかあるはずがなかった。

やがて家のある駅に到着して電車を降りた。びっくりした。④改札へ向かうホームの先を、トボトボという感じで歩いている父の後ろ姿が目に入った。

すぐに僕は納得した。父はおばあさんに席をゆずったと思われるのが照れくさくて、それにおばあさんから礼をいわれるのが恥ずかしくて、それで降りるふりをして隣の車両に乗りなおしたのだ。

そう思ったとたん、

「父さん！」

と父に声をかけてしまった。

父と同じ電車になることは何度かあったけど、一度も声をかけたことはなかった。話したくなかったので一緒に帰りたくなかったからだ。でもその日は声をかけてしまった。何だか父のことがうれしかった。話しながら一緒に帰りたい気分だった。

父が振り向いた。驚いたようにキョトンとした。

「一緒に帰ろう」

僕はいった。

「ああ」

父がうれしそうに笑った。

（川上健一　『電車』による）

【Ⅱ】　広野の花のように　　宮澤章二（みやざわしょうじ）

だれの胸の内にも恵まれているはずの
思いやりのある心は海のように豊かだから
ほんの少しの気配りであってもいいのだ

だれかがひとりぼっちのとき　声をかける
だれかがころんだとき　手をさしだす
そんな　ちょっとした親切な動作も
広野の花のように明るくかおる日がある

だれも気づかぬこと　に気づくのは尊い
だれもが　気づいていながらやらぬことを
思いきってやってみるのは　更に尊い

ぼくらは　歩く道で迷うことが多いけれど
迷っているまに機会は逃げてしまう
ほんの少しの気配りであってもいいのだ
花のような心を　人に向けてみないか

問1　【Ⅰ】の①ザッシ　②オオゼイ　を漢字に直して書きなさい。また、③度胸　④改札　の読み仮名を書きなさい。

問2　「僕」から見た父親の人柄が直接表現されている二字と七字の語句を、【Ⅰ】からそれぞれ抜き書きしなさい。

問3　【Ⅰ】において、「僕」の態度が　声をかけなかった　から　声をかけてしまった　へと変化したのは、父親に対して、ある感情を抱いたからである。その感情として最も適切なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選んで記号を書きなさい。

ア　親愛　　**イ**　感傷　　**ウ**　悲哀　　**エ**　同情

問4　【Ⅱ】の　歩く道で迷う　が表していることを次のように説明するとき、〔　　〕に適する内容を**十五字以内**で書きなさい。

日常生活の中で〔　　〕をためらう

問5　【Ⅰ】と【Ⅱ】を読み比べ、次のような批評文を書いた。これを読んで、後の問いに答えなさい。

【Ⅰ】の父親は、周囲が眠ったふりをしているなか、席を立った。このような行為が、【Ⅱ】で〔 a 〕と評価されていると考えると、「僕」が、父親と〔 b 〕と感じて声をかけたことへの理解が深まる。

【Ⅱ】の「広野の花」とは、野原でよく目にする草花である。人々は、ふとしたきっかけでその美しさに気づき、花は「明るくかおる」のである。こう考えると、【Ⅰ】の父親の行動は、「広野の花」のように〔 c 〕と言える。

(1)　〔 a 〕〔 b 〕に当てはまる語句を、〔 a 〕には【Ⅱ】から**五字以内**で、〔 b 〕には【Ⅰ】から**十字以内**で、それぞれ抜き書きしなさい。

(2)　〔 c 〕に適する内容を、**三十字以内**で書きなさい。

3

次の【Ⅰ】～【Ⅲ】を読んで、問1～問5の問いに答えなさい。

【Ⅰ】

由、女にこれを知るを*誨へんか。これを知るをこれを知るとなし、知らざるを知らずとなす。これ知るなり。

由、誨女知之乎。知之為知之、不知為不知。是知也。

【Ⅱ】

吾日に三たび吾が身を省みる。人の為に*謀りて*忠ならざるか。朋友と交りて信ならざるか。習はざるを伝へしか。

吾日三省吾身。為人謀而不忠乎。与朋友交而不信乎。伝不習乎。

【Ⅲ】

学びて思はざれば則ち*罔し。思ひて学ばざれば則ち*殆し。

学而不思則罔。思而不学則殆。

（『論語』による）

【注】

＊由……孔子の弟子　　＊誨……教えること　　＊謀……相談にのって考えること

＊忠……まごころを尽くすこと　　＊罔……物事の道理がよく分からないこと　　＊殆……危険であること

問1　【Ⅰ】の書き下し文を参考にして、知之為知之に返り点を書き入れなさい。

問2　【Ⅱ】の　朋友と交りて信ならざるか　を次のように口語訳するとき、〔　　〕に当てはまる内容を**十字以内**で書きなさい。

〔　　〕とき、誠実さを失わなかったか

問3　【Ⅱ】の　習はざるを伝へしか　の「習」の意味として適切なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選んで記号を書きなさい。

ア　慣習　　**イ**　習熟　　**ウ**　風習　　**エ**　習性

問4　【Ⅲ】の　思ひて学ばざれば則ち殆し　は現代にも生きる教訓である。具体的にどのようなことを述べたものか、次の**ア**～**エ**から一つ選んで記号を書きなさい。

ア　自ら進んで疑問を解決しないと大成しない。

イ　世の中の動きに敏感でなくては取り残されてしまう。

ウ　新たに外から取り入れることがないと視野が狭くなる。

エ　自分で学んだことは実践しないと身につかない。

問5　【Ⅰ】～【Ⅲ】について次のようにまとめた。後の問いに答えなさい。

【Ⅰ】本当に知るとは〔a〕を明確に区別すること

【Ⅱ】様々な視点で自ら〔b〕すること

【Ⅲ】知識の獲得と思考の深化を〔c〕こと

(1)　〔a〕に適する内容を**十五字以内**で書きなさい。

(2)　〔b〕に適する語句を**漢字二字**で書きなさい。

(3)　〔c〕に適する語句を**五字以内**で書きなさい。

4

「本の世界を広げる」というテーマで、図にある語を手がかりに、あなたが思っていることや考えたことを、後の**〈条件〉**にしたがって書きなさい。

図

知識	筆者	情報	
選択	人生	比較	
活用	読者	検索	

〈条件〉

1　第一段落には、「本の世界を広げる」ことについて、図にある語を二つ以上用いて、あなたの思ったことや考えたことを書きなさい。

2　第二段落には、第一段落を踏まえた、自分の体験や見聞を述べなさい。

3　原稿用紙の使い方にしたがい、二百字以上、二百五十字以内で書きなさい。

2014年度　秋田県改

1

問1　読み　①　②　漢字　③　④

問2

問3

問4

問5　X　Y

問6

問7

Z

こと

2

問1　漢字　①　②　読み　③　④

問2　二字　七字

問3

問4

問5　(1)　a　(2)　b　c

3

問1　知ルヲ　之ヲ　為シ　知ルト　之ヲ

問2

問3

問4

問5　(1)　a　(2)　b　(3)　c

4